

障害者らの絵画採用 企業記念品など展示

名古屋

県内の障害のある人が描いた絵画をデザインに採用して作った企業の記念品と、その原画の複製品を集めた展示会が二十六日、名古屋市中区栄一の岡崎信用

金庫名古屋支店で始まった
写真。三月一日まで。

デザインが採用されたのは、昨年九月に名古屋市内であった「あいちアール・ブリュット展」に出品された絵画など六百七十三点のうち、県内十六の企業・団体が選んだ三十九点。それらを採用入れたクリアア



イルやタオル、ティッシュボックスなど四十品目が、原画の複製品とともに並んでいる。

あいちアール・ブリュット展は正規の美術教育を受けていない障害者らの作品展で、県が二〇一四年から始めた。一七年からは障害者の芸術活動を支援する一般社団法人「アティックアート」(事務局・豊田市)と連携し、同展の出品作からノベルティ品を作る活動に取り組んでいる。

障害者アート作品と企業グッズがコラボ

名古屋で1日まで展示

障害がある人たちが描いたアート作品と、それらを元に制作された企業のノベルティグッズを展示する「あいちアール・ブリュッ

内企業がクリアファイルやタオルなどのノベルティグッズを作って障害者の自立や社会参加を支援している。

ト×アティックアート採用作品展」が26日、名古屋市中区の岡崎信用金庫名古屋支店6階で始まった。3月1日(午前10時～午後5時)まで。無料。

会場には、アール・ブリュット展の応募作品の中から16企業が採用した作品のレプリカや、制作されたノベルティグッズが展示されている。繊細な点描で描かれた魚や、ステンドグラスを思わせるようなデザインのバラなど、色彩豊かな原画が並ぶ。

県は2014年から、才能と個性にあふれた障害者のアート作品を募る「あいちアール・ブリュット展」を開いている。17年からは、アートを通して障害者の支援をする一般社団法人アティックアートと連携。応募作品を元に、県

アティックアートの須藤伸枝理事長は「参加企業は年々、増えていて、アートを制作する障害者にとって励ましになる」と話す。

障害者が描いたアート作品の原画と、それを元にした企業のノベルティグッズが展示されている。名古屋市中区の岡崎信用金庫名古屋支店



3月10～15日には愛知芸術文化センター12階アートスペースG・Hで、「あいちアール・ブリュット優秀作品特別展」も開かれる。こちらも無料。(鈴木裕)